

彗星大衝突

巨大な首長恐竜ブラキオサウルスの群れが広い草原で群れ、一転して凶暴な肉食恐竜のティラノサウルスが車を襲い、賢く敏捷なヴェロキラプトルが人間を追いつめる。スピルバーグ監督の映画『ジュラシック・パーク』のスクリーン狭しと写る恐竜達は、一億数千万年という悠久な時間、栄華を誇っていた。その恐竜達は六千五百万年前に漆黒の宇宙から飛来した一つの巨大隕石によって突如として姿を消した。

直径およそ十^キ、伊豆大島ほどの巨大隕石が新幹線の四百倍の速さで地球に衝突、火の玉の温度は百万度。想像を絶する衝撃と大爆発が生命を引き裂いた。爆発による塵や大火災によるススによって地球は、数年にわたって昼でも満月程度の闇の世界となった。いわゆる「核の冬」と呼ばれているもので、頂点を極めていた恐竜達は死に絶えた」。

これが巨大隕石衝突説のシナリオで、衝突地点はメキシコのユカタン半島が有力視されている。衝突によってできたクレターの直

径百七十^キ、その縁の環にはマヤ文明を育んだ“セノーテの環”という自然の井戸が円状に並んで残されている。

恐竜絶滅の再来というべき彗星の大衝突が今年七月二〇日、土用の丑の日を中心に太陽系で起こると予告されている。『ニューメイカー・レビー9彗星』という、二〇個に分かれた彗星が数珠(むず)繋がりにつながって木星に次々と落下する。一番大きなものは、かつての巨大隕石の半分ほどの大きさとなる。木星は赤い目のような大赤斑を持つ、マイナス百数十度の厚い大気で覆われた酷寒の世界となっている。その木星に彗星が接近するにつれオーロラが輝き、落下とともに大爆発が起こると想像されている。他の星ながら興味に尽きない。